

を観る催しも行われた。その中で、一般相対論の解に関する講演の中で、「ナリアイ解」が「ド・ジッター解」と並べて議論されているのも印象的であった。この解は、成相秀一先生（広大名誉教授）が、1951年に導いたものである。東北大紀要に発表されたため、国際的には、あまり知られていなかったが、今では、学術用語としても定着してき

ているようだ。研究会終了後は、出発日（直行便は週一回）までの数日の間に、見物のバス旅行に加わったが、広い大陸のこと、パースの周辺の砂漠的草原と巨大な岩とカンガルー、エミューを見えるにとどまった。若い人達は、別の手段を使って、オーストラリアの各地へ足をのびたかもしれないが。

サークル紹介

広大で一番自然に近いサークル

— 生物会 —

総合科学部学生 佐藤 秀之



毎日の単調な生活につかれて、ふと野山へ出かけたいとか、太陽の光を体いっぱい浴びて遊びたいと思ったことはありませんか。山や川や海などの自然はそんな私たちをやさしく受け入れ、つかれた体をいやしてくれます。そんな自然により近づこうと活動しているのが私たち「生物会——いきものかい——」です。「生物」と書いて「せいぶつ」と読まず「いきもの」と読むのは私たちの活動している内

容のためだと思います。つまり私たちは、「せいぶつ」の生態とか特長、分類などを勉強するのが目的ではなく、「いきもの」をとおして自然を知り、そしてその自然に親しむことを目的にしているのです。だから、もしあなたが広々とした草原で昼寝をするのにあこがれたり、道端に咲いている小さな花を見て心をひかれることがあるなら、「生物会」の会員の資格が十分すぎるほどあるとらっていいでしょう。花が好き、鳥が好き、釣りが好き、自然が大好きな人、または、大学に入ったけれどたいくつな生活を送っている人は今すぐ「生物会」に入会しましょう。そして、週末や夏休みを利用して、いっしょに出かけてみませんか。

紙面の関係でくわしいことが説明できませんが、くわしいことが知りたい人は生協書籍部上にある Box まであそびに来てください。

なお、生物会では今会員を募集しています。

※写真は県民の森でキャンプをした時のものです。